

公園のチカラLAB 編集室調べ／全国の0～6才までの子育てをする女性約500名にアンケート
乳幼児・幼児が安心して遊べる公園に関する調査

「乳幼児・幼児が安心して遊べる公園」は普遍的なテーマですが、以前から乳幼児（1才～3才未満）・幼児（3才～6才未満）を公園で遊ばせるお母さんたちから「小学生と一緒に遊ぶのは危ない」という声が上がっていました。また最近では待機児童解消のため、公園に保育所を設置する規制緩和が全国に広がる動きがあるので、保育士が乳幼児・幼児を公園で遊ばせる機会が増えるのではないかと考えます。首都圏では新設された保育所に園庭のスペースがない場合、代わりに公園で乳幼児・幼児を遊ばせるケースも見られます。

そこで公園の利用促進に関する情報発信を行っている公園のチカラLABでは、乳幼児・幼児を安心して遊ばせられる公園に必要な要件をお母さん目線で探るため、全国の0～6才までの子育てをする女性にアンケート調査を行いましたのでお知らせします。

都市公園では「子ども向け」とひとくくりには安全性を損なう可能性が。安心して乳幼児・幼児を遊ばせる公園にするには、乳幼児（1才～3才未満）、幼児（3才～6才未満）と児童（6～12才）の年齢別にエリアに分けるか、いずれかの年齢帯に重点を置いた検討・整備が必要。特に乳幼児・幼児向けの施設・設備の拡充はお母さんからのニーズも高い。

●アンケート調査結果の要約

〔 POINT 1 〕 公園の利用意欲と現実 (Page 2～3)

公園で身体を動かすことは95%以上の方が大切だとするものの、実際に子どもを公園に週に1回以上連れて行く方は50%にとどまります。

週1回以上連れて行かれない方にその理由を聞くと、「近くに行きたくなくなるような魅力のある公園がない」が48%、「仕事などが忙しく、連れて行く時間がない」が32%となり、場所と時間の問題が全体の80%をしめています。

〔 POINT 2 〕 行きたくなる公園 (Page 4)

“行きたくなるような魅力”は安全・安心のことで、お母さん自身も気を遣っています。他に、楽しさ（遊具）や身近にある利便性も重要な要素です。

複数選択の回答で、81.7%が「子どもを安心して遊ばせることができる公園」を選択。「住んでいる近くにある身近な公園（73.0%）」、「楽しい遊具のある公園（51.4%）」がこれに続きます。また「どの遊具や遊びでも必ず付き添う」が56.3%を占め、77.5%が何らかの形で子どもに注意を払っています。

〔 POINT 3 〕 遊ばせたくない公園 (Page 5)

遊ばせたくない公園の理由は、清潔感のなさやイメージの悪さ。やはりメンテナンスや管理状況が重要になります。

上位3位に「鳩やカラスが群れていたたり、犬や猫の糞がある（57.2%）」、「ゴミ箱にゴミがあふれていたたり、トイレに清潔感がない（50.5%）」、「中高生がたむろしており雰囲気が悪い（49.9%）」が上がりました。多くの乳幼児・幼児は直前にならないと「トイレに行きたい」と言いませんので、トイレがない公園も敬遠されがちです。

〔 POINT 4 〕 公園にあったらいいと思う施設・設備 (Page 6)

トイレや手洗い場など、基本的な設備に乳幼児・幼児用の二歳は高く、安全・安心の観点から小学生とのゾーン分けも求められています。

乳幼児・幼児の利用に適したサイズのトイレや水飲み場などがあると、利用のしやすさや清潔感などの他に、お母さんの介添えなしに“自分でさせる”という成長を促す面でメリットがあると考えられます。

〔 学識者コメント 〕 (詳細はPage 9)

都市公園では「子ども」とひとくくりで考えることは安全性を損なう可能性があります。理想を言えば、1才～3才未満、3才から6才未満、6才から12才という3つの年齢帯に分けて、安全性や発育・発達の観点から、それぞれの年齢帯に応じた施設・設備の要件を考える必要があります。規模の大きな公園なら年齢帯でエリア分けすることができますし、小さな公園なら、いずれかの年齢帯に重点を置いた公園の検討・整備も今後は必要と考えられます。

荻須 隆雄 氏 (公園のチカラLAB 特別アドバイザー／元玉川大学教育学部教授)



NEWS LETTER (調査レポート)

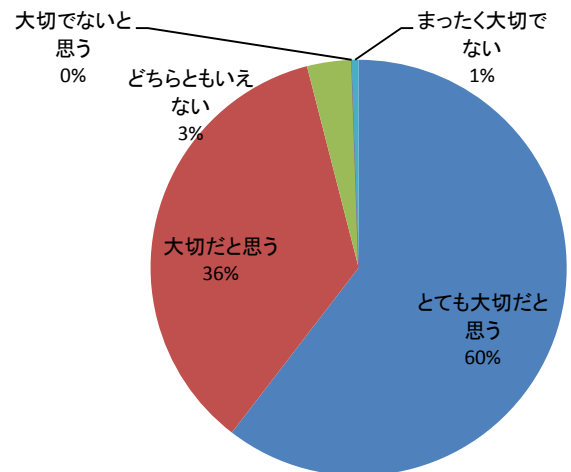
●アンケート調査結果

公園で身体を動かすことは95%以上の方が大切だとするものの、実際に子どもを公園に週に1回以上連れて行く割合は54%にとどまります。

Q:子どもが成長するために、公園などで身体を動かす外遊びが大切だと思いますか。

回答結果：「とても大切だと思う」と「大切だと思う」を合計すると96%にのびります。

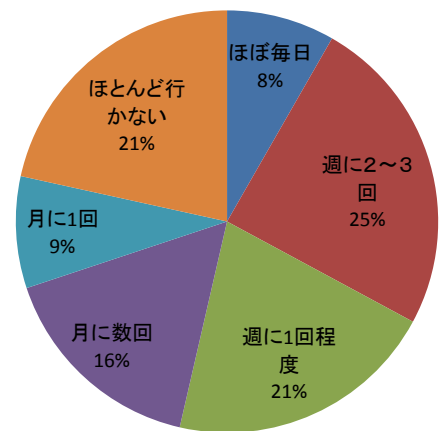
- ・「とても大切だと思う」が60%と過半数を超えています。
- ・「とても大切だと思う」と「大切だと思う」を合計すると96%にのび、外遊びの重要性はよく認識されているようです。



Q:子どもを遊ばせるために、公園へはどのくらいの頻度で行きますか。

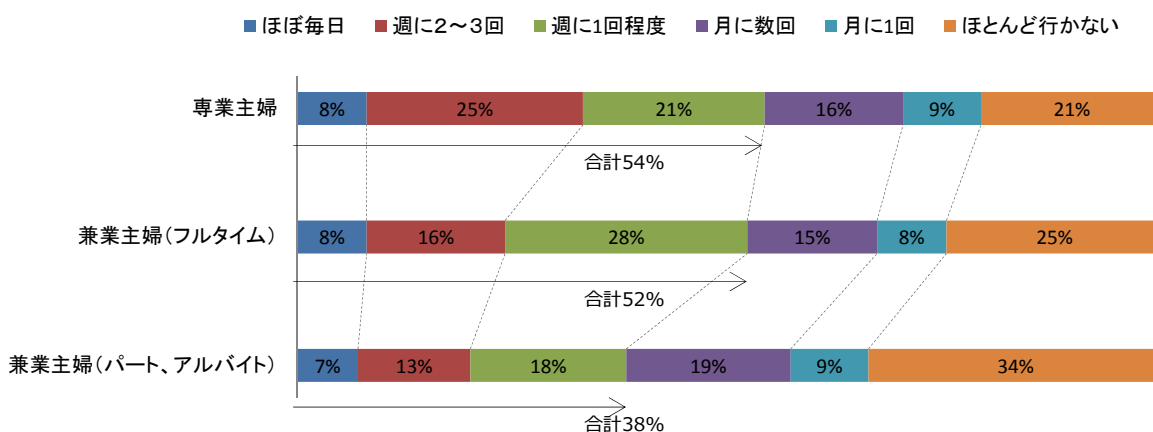
回答結果：週に1回以上、連れて行く方は54%にとどまります。

- ・全体に偏りの少ない割合になったが、「ほとんど行かない」が24%と最多になりました。
- ・「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「週に1回程度」を合すると、54%を占めます。
- ・公園での外遊びの重要性は理解しつつも、ひんぱんには連れて行けない事情があることが見受けられます。



回答結果：専業主婦、兼業主婦（フルタイム）では、連れて行く頻度にあまり差がありません。

- ・就労状況に関する質問でクロス集計したところ、専業主婦は週1回以上行く割合が合計54%、兼業主婦（フルタイム）の同合計では52%と頻度の傾向はあまり違いはなく、仕事が忙しいから行かないということはないようです。逆に兼業主婦（パート、アルバイト）は同合計38%とやや少なくなる傾向があります。





●アンケート調査結果

**子どもを公園に週に1回以上連れて行けない理由は、場所と時間の問題。
近くに魅力のある公園がない、忙しくて連れて行けないで80%をしめます。**

Q:「月に数回」、「月に1回」、「ほとんど行かない」と答えた方にお伺いします。
あまり公園に行かない理由は何ですか。

回答結果：「近くに魅力のある公園がない」が半数をしめます。

		名	%
1	近くに行きたくなくなるような魅力のある公園がない	132	48.4%
2	仕事などが忙しく、連れて行く時間がない	86	31.5%
3	子どもが室内遊びが好きで、公園や外遊びに行きたがらない	40	14.7%
4	まだ生まれて間もないので、公園を散歩したり、遊ばせたりするのは早いと考えている	21	7.7%
5	普段からあまり家族と外出はしない	12	4.4%
6	その他	42	15.4%
	合計	273	100.0%

- ・「近くに行きたくなくなるような魅力のある公園がない」が48%、「仕事などが忙しく、連れて行く時間がない」が32%となり、場所と時間の問題が全体の80%をしめています。
- ・1位に上げられている“行きたくなくなるような魅力”とは、次ページの設問の回答を見ると、安全・安心で遊具がたくさんある、ということになります。
- ・「その他」では以下のような意見がありました。
 - 最近第2子が生まれたのでなかなか行けない。
 - すぐ近くにあるが、毎日行きたいと言われると負担がかかるので。
 - 雪国だから、現在雪のため公園に行けない。
 - 幼稚園で十分遊んでいるから、幼稚園で疲れてるから、保育所でたっぷり外遊びしてるから。
 - 寒くなると風邪を引く事が怖くてあまり連れて行かない。季節の良い時は回数が増える。
 - 家の前で近所の子と遊ぶから。
 - 病気がちだったから、風邪をひきがちだから。



NEWS LETTER (調査レポート)

●アンケート調査結果

“行きたくなるような魅力”とは安全・安心のこと。他に、楽しさ（遊具）や身近かにある利便性も重要な要素です。

Q:子どもを育てるとい観点でどんな公園であることが大切だと思いますか。（複数選択可）

回答結果：「子どもを安心して遊ばせることができる公園」を81.7%の方が選択しました。

		名	%
1	子どもを安心して遊ばせることができる公園	450	81.7%
2	住んでいる近くにある身近な公園	402	73.0%
3	楽しい遊具のある公園	283	51.4%
4	緑や花が豊かで自然のある公園	191	34.7%
5	くつろいだり休める公園	157	28.5%
6	遊具や施設が新しい公園	133	24.1%
7	点検などの維持管理状況が分かりやすい	118	21.4%
8	スポーツや健康づくりができる公園	55	10.0%
9	地域の絆や歴史を感じることができる公園	27	4.9%
10	その他	4	0.7%

- ・1位の回答のキーワードは「安心」、2位は「身近（利便性）」、3位は「楽しさ（遊具）」となりました。
- ・平成26年度都市公園利用実態調査（国土交通省／最新調査分）でも、「欲しい公園」は「子どもを安心して遊ばせられる公園」が1位であり、全体の40.8%を占め、主婦層では50.8%に上っています。

Q:公園で子どもを遊ばせている時、ご自身はどのようにされていますか。

回答結果：77.5%以上の方が子どもに注意を払っています。

		名	%
1	どの遊具や遊びでも必ず付き添う	310	56.3%
2	なるべく付き添わないが目は離さない	117	21.2%
3	付き添ってはいるが、他のことをしている (例：スマホの閲覧・操作など)	99	18.0%
4	付き添わない	15	2.7%
5	ほとんど付き添わないし、常に見てはいない	10	1.8%

- ・「どの遊具や遊びでも必ず付き添う」が56.3%を占め、2位と合計すると77.5%が何らかの形で子どもに注意を払っています。公園での事故はちょっと目を離した際に起きることも多く、3位のように「付き添ってはいるが、他のことをしている」は注意を払っているとは言えません。

Q:公園にある遊具で子どもを遊ばせる時、その遊具が子どもの年齢に適しているかを考慮したことがありますか。

回答結果：「自分で見て、自分で判断する」が67.2%で多数派をしめます。

		名	%
1	自分で見て、自分で判断する	370	67.2%
2	遊具ごとに示されている適切な年齢区分や対象年齢表示を探す	110	20.0%
3	あまり考慮しない	54	9.8%
4	まったく考慮しない	17	3.1%

- ・遊具の対象年齢については「適切な年齢区分や対象年齢表示を探す」は20%と少なく、67.2%が「自分で見て、自分で判断する」と回答しており、経験則や思い込みなどによる誤った判断などが懸念されます。



NEWS LETTER (調査レポート)

●アンケート調査結果

**遊ばせたくない公園の理由は、清潔感のなさやイメージの悪さ。
やはりメンテナンスや管理状況が重要になります。**

Q:子どもを公園で遊ばせたくないと思うのはどんな場合ですか。お天気が悪い場合を除いてお答えください。(複数選択可)

回答結果：1位～3位の回答は、公園の清潔感やイメージの悪さに関するものが占めます。

		名	%
1	鳩やカラスが群れていたり、犬や猫の糞がある	315	57.2%
2	ゴミ箱にゴミがあふれていたり、トイレに清潔感がない	278	50.5%
3	中高生がたむろしており雰囲気が悪い	275	49.9%
4	トイレがない、もしくは使いにくい	259	47.0%
5	遊具の点検や修繕がされていない	256	46.5%
6	幼児が遊べる遊具がない	254	46.1%
7	小学生が遊んでいるボールが当たりそう	225	40.8%
8	自転車やスケートボードなどが乗り込んでくる	211	38.3%
9	落書きや破損している施設などがある	192	34.8%
10	死角になるような場所や見通しの悪い場所がある	183	33.2%
11	幼児が水飲みや手洗いでできる水場がない、もしくは使いにくい	172	31.2%
12	既にあるママさんグループに気がつかう	156	28.3%
13	乱暴な同年代の子どもが遊んでいる	155	28.1%
14	坂や段差、未舗装な場所がありベビーカーで通りにくい	73	13.2%
15	その他	10	1.8%

- ・上位3位の回答は、公園の清潔感やイメージの悪さに関するものが占めました。
鳩やカラスが群れていたり、犬や猫の糞がある (57.2%)
ゴミ箱にゴミがあふれていたり、トイレに清潔感がない (50.5%)
中高生がたむろしており雰囲気が悪い (49.9%)
上記のような状態だとお母さんが利用をためらうのは心情としてよく理解できます。ただし管理人がいない小規模の公園などではメンテナンスにも限界がありますから、利用者のマナー向上や地域ボランティアの協力なども必要になると考えられます。
- ・4位は、「トイレがない、もしくは使いにくい (47.0%)」です。
多くの乳幼児・幼児は直前にならないと「トイレに行きたい」と言いません。ですので、公園にトイレがなかったり、使いにくいとお母さんはトイレのことを気にしながら遊ばせることになります。
- ・5位は、「遊具の点検や修繕がされていない (46.5%)」です。
遊具が壊れたままになっていると危険ですから、遊ばせたくないのは当然です。
- ・6位は、「幼児が遊べる遊具がない (46.1%)」です。
公園はいろんな年齢の子どもが遊ぶように想定されていることが多いので、幼児が遊べるものは意外と種類や数が少ないです。幼児向け遊具には砂場や動物などにかたどられたスプリング遊具などがあります。
もちろんすべり台もお母さんの付き添いがあれば利用できるでしょうが、小学生などが一緒にいると“じゃまもの扱い”されるので実際は難しいです。
- ・7～8位は、小学生がいる場合には同じ場で遊ばせるのは難しいことが表れています。
小学生が遊んでいるボールが当たりそう (40.8%)
自転車やスケートボードなどが乗り込んでくる (38.3%)
こうした要望があるからと言って上記のようなことを禁止すると、子どもが遊べない公園を増やすだけになってしまいます。
- ・9～10位は、安全・安心に関わる項目です。
落書きや破損している施設などがある (34.8%)
死角になるような場所や見通しの悪い場所がある (33.2%)



NEWS LETTER (調査レポート)

●アンケート調査結果

トイレや手洗い場など、基本的な設備に乳幼児・幼児用のニーズは高く、安全・安心の観点から小学生とのゾーン分けも求められています。

Q:子どもを遊ばせるために、公園にあったらいいと思うのはどんな施設・設備ですか。(複数選択可)

回答結果：1位、2位、5位に乳幼児・幼児向けの設備や施設の要望があげられました。

		名	%
1	幼児用トイレ	340	61.7%
2	幼児用の手洗い場や水飲み場	327	59.3%
3	日よけスペース	313	56.8%
4	ベンチ	276	50.1%
5	乳幼児や幼児に限定した遊び場や遊具の設置	273	49.5%
6	時計	227	41.2%
7	芝生広場	216	39.2%
8	駐車場	176	31.9%
9	おむつ替えスペース	167	30.3%
10	監視カメラ	141	25.6%
11	自動販売機	139	25.2%
12	雨宿りスペース(あずま屋)	136	24.7%
13	非常時の通報ベル	113	20.5%
14	駐輪場	90	16.3%
15	バリアフリーの通路	87	15.8%
16	授乳スペース	84	15.2%
17	花壇	77	14.0%
18	その他	2	0.4%

- ・上位5項目の中で、直接的に乳幼児・幼児向けと言える設備や施設の要望は3項目にのびりました。いずれも50%近く選択されています。
1位：幼児用トイレ(61.7%)
2位：幼児用の手洗い場や水飲み場(59.3%)
5位：乳幼児や幼児に限定した遊び場や遊具の設置(49.5%)
- ・1位に「幼児用トイレ」があげられていますが、公園のトイレは大人を含むかなり広い年齢層を想定して設置されているので、幼児用トイレがある公園は数少ないはずですが、しかしながら、幼稚園や保育所にあるような幼児が使いやすいサイズのもが公園にもあればありがたいでしょう。
なぜなら、ひとりでトイレができるかは子どもの成長のバロメーターですし、なるべくひとりでさせたいのはお母さんの心情でしょう。
- ・2位の「幼児用の手洗い場や水飲み場」に関しては、幼児は未だいろんなところに手をつくるので、トイレは清潔であることが望ましいのはもちろんですが、幼児用の手洗い場や水飲み場があれば、お母さんは子どもに自分で手を洗わせたりすることができます。自分で手を洗える、蛇口をひねれるは、幼児のしつけの機会でもあります。
- ・5位の「乳幼児や幼児に限定した遊び場や遊具の設置」に関しては、小学生と遊ぶ危険を避けたいという意識が見られます。最近では年齢別にゾーン分けを行い、各ゾーンの年齢にふさわしい遊具を設置するような公園も見られるようになってきました。具体的には1才～3才未満、3才以上～6才未満、6～12才と細かくゾーン分けしている公園もありますので、こうした場では安心して遊ばせることができるでしょう。
- ・その他、3位の日よけスペースも、夏の厳しい直射日光を浴びるのは避けたい乳幼児などを連れてくるお母さんにとっては是非とも欲しい施設でしょう。4位のベンチもベビーカーの子どもと向き合ったり、離れて子どもを見守るためには必要だと考えられます。



NEWS LETTER (調査レポート)

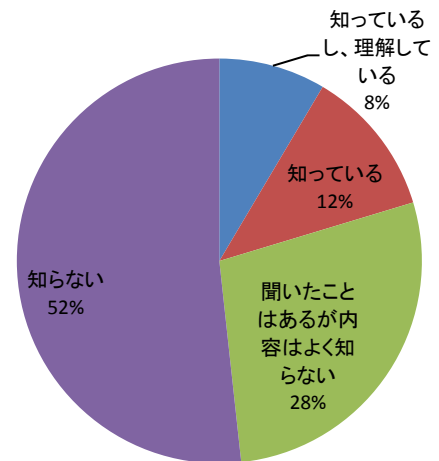
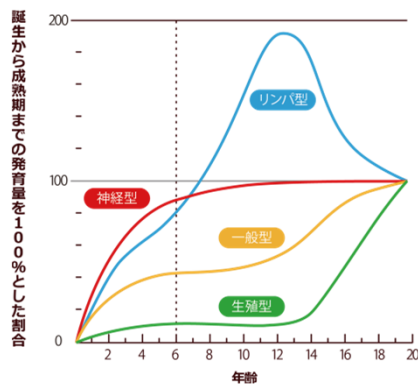
●アンケート調査結果

子どもの成長について唱えられた「スキヤモンの発育曲線」を知っていたり、理解しているほど、積極的に子どもを公園に連れて行きます。

Q:子どもの発育について、神経系（知覚神経や運動神経、自律神経など）は小学生になるまでに8割は発育が終わるといいう学説があることを知っていますか。

回答結果：「知っているし、理解している」、「知っている」を合計しても20%と少数派。

・米国の医学者、人類学者R.E.スキヤモンが唱えた「スキヤモンの発育曲線」を提示して聞いたところ、「知っているし、理解している」と「知っている」を合計して20%となり、あまり多くはないことが分かりました。

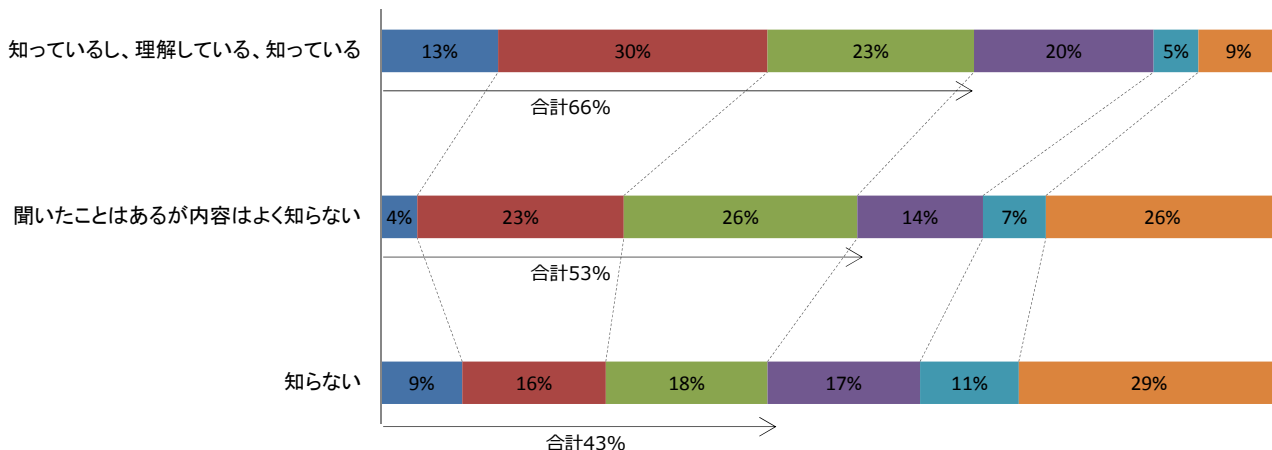


[スキヤモンの発育曲線]
R.E.Scammon (1883-1952) が1930年に出版した「The measurement of the body in childhood.」の中で紹介した学説で、現在でも発育発達やスポーツ科学、人類学などの分野の書物や論文で引用されている。

回答結果：「知っているし、理解している」、「知っている」層は、より積極的に公園に連れて行く。

・しかしながら、子どもを公園に連れて行く頻度の質問でクロス集計したところ、「知っているし、理解している」と「知っている」は頻度が高い傾向が見られました。やはり「小学校に上がってから神経系の成長に取り組んでも遅いのでは」と考えるからだと思われます。

■ほぼ毎日 ■週に2~3回 ■週に1回程度 ■月に数回 ■月に1回 ■ほとんど行かない





●アンケート調査結果

自由回答では安全・安心、身近か（利便性）、楽しさ（遊具や自然）の他、「清潔」という言葉も目立ちます。

Q:子どもを遊ばせたい、育てる場として、こんな公園があったらいいなと思うことがあれば自由にご記入ください。

●代表的な回答例（凡例：都道府県／回答者年齢／子どもの年齢）

※以下のコメントは原文のまま引用しています。

- 近所の公園は、ホームレスの方が休んでいることが多いです。その方々にも事情があるので仕方がないのですが、なかなか気軽に連れて行けません。また、我が家は3人の子供がいて、上の子と下の子の年が離れています。大きい子も小さい子もそれぞれ遊べるような遊具のある公園に行きたいです。（北海道／43才／5才と7才以上）
- 日陰になるところにベンチがある、あずま屋がある、など休憩スペースがある公園がよい。（親子共に日光湿疹ができるタイプなので長時間日に当たれないから）（北海道／35才／2才）
- アスレチックがある場所。子供はドングリやイチヨウの葉を拾うのが好きなのでそういう木々のあるところ。緑のたくさんあるところ。（茨城県／41才／1才）
- 真新しい遊具（低年齢層の物もあれば、小学生向けのまで幅広く）があると良い。長くいることが多いので、赤ちゃん連れでも疲れないように配慮されていると有難い。（埼玉県／41才／0才と4才）
- 安全・清潔であれば、遊びは子供達が決めること。（東京都／32才／1才と5才と7才以上）
- 清潔で、トイレがあるところ。子供は、ギリギリになってからしかトイレに行きたいと言えないので公園内にあると助かります。（神奈川県／35才／3才と6才）
- ブランコ、シーソー、鉄棒、すべり台、砂場はあるとうれしい。小学生がきちんとマナーを守ってごみを捨ててくれるような面白いゴミ箱があればうれしい。（神奈川県／38才／3才と5才と7才以上）
- 危険がない安全な公園が欲しい。2才の子どもと夕方公園へ行っても小学生が自転車で走り回っているので危なくて遊べない。できれば小学生以下の子どもと小学生以上の子どもたちが分かれて遊べるようになっていると嬉しい。（愛知県／39才／2才と6才と7才以上）
- いろんな種類の遊具があり、芝生も多い公園。全面芝生だとけがを経験しない子どもになりそうなので、土の見える部分も必要。夏は水遊びができる。（愛知県／36才／2才）
- 見通しが良く、かつ日除けになる場所がある事。球技なども制限があっても良いが、ちゃんとそれも出来る場所の確保がしてある事。（大阪府／31才／5才）
- 子連れでもベビーカーでも気軽に歩いて清潔な公園。年代別に遊ぶスペースを遊具等で大まかに振り分けて皆が気兼ねなく思いっきり遊べる公園。（大阪府／39才／1才）
- 入り口から子供が出れないようになっている公園。（兵庫県／39才／2才と6才と7才以上）
- 清潔で広くて、よちよち歩きの子でも遊べる遊具があって、お花が咲いていたり、緑もあり、日除けできる屋根付きのベンチがたくさんあり、のびのび走り回れて、犬の散歩もできて、治安も良い公園。（岡山県／33才／1才）
- よちよち歩きの子でも遊べる公園。駐車場がある。日除けがある。雨よけがあると助かる。（愛媛県／28才／1才）
- うんていや登り棒など、筋力がつくような遊具を小さい公園にもおいてほしい。（福岡県／34才／6才と7才以上）
- 歩いて行ける公園。（沖縄県／38才／3才）



●特別アドバイザー コメント

都市公園は「子ども」とひとくくりで考えるのは安全性を損なう可能性があります。特に乳幼児・幼児の子育ての場としては配慮が必要で、近隣の利用者だけでなく、保育所待機児童の解消のため、「園庭」を確保できない保育所・保育施設が増えており、近くにある都市公園を「園庭」として利用することが増えてくると考えられます。

3才未満や3才～6才未満くらいの乳幼児・幼児に重点を置く都市公園の整備が必要です

公園＝子どもが遊ぶ場所というイメージはありますが、安全性と発育・発達の観点から、「子ども」とひとくくりにすることには、無理があります。3才未満、3才から6才未満、6才から12才というように、3つの年齢帯に分けて考える必要があります。

まず安全性ですが、本調査に協力してくれたお母さんたちの回答にもあるように、よちよち歩きの乳幼児・幼児とスピードも体格も違う小学生が同じスペースで遊ぶ状況では、危険性が大きくなります。双方がどんなに遊び方を工夫しても、共存するのは難しいでしょう。近年、首都圏では上記のような年齢帯で遊ぶエリアを3つに分けて、それぞれの年齢に適した遊具を配置する公園の事例も出てきました。また、小中学生が遊ぶエリアは高いネットで囲い、思いっきりボール遊びができるようにしている所もあります。

特に幼児期は、特定の運動の上達を目指すよりも、外遊びを通して、走る、跳ぶ、滑るなどのさまざまな動きをすることで、運動神経が身につくと考えられています。乳幼児・幼児向けの遊具の設置のほか、這い這い、寝転ぶ、転がることのできる芝生などのコーナーなどもあれば理想的です。

待機児童の解消を狙う新設の保育所などにとっても、保育環境としての「園庭」の代わりとして都市公園を考えることも重要です

アンケート調査の結果とは直接関係はありませんが、別の視点からも幼児に重点を置く都市公園の整備を考える必要があります。なぜなら、待機児童の解消を目指して保育所などが新設されていく中で、専用の園庭を確保できない保育所などが、都市公園を園庭の代わりとして満2才以上の幼児を遊ばせる機会が増えることが見込まれるからです。

また、現在は国家戦略特区だけで認められている都市公園内の保育所設置について、国土交通省が全国で可能にする施策を進める方針です。

子どもの心身の発育・発達のために、外遊びは不可欠です。乳幼児から発達状況に応じた食生活、適度な運動、十分な休息・睡眠という「健康三原則」が重要であり、運動をしてお腹が減る、疲れて眠るというように、外遊びはこの「健康三原則」に深いかわりがあります。

園庭を持たない保育所などは特にそうですが、都市公園まで出掛けて外遊びをする機会は、恐らく1日1回が限度でしょう。そうした限られた時間内で、充分かつ効率的に外遊びができるように、幼児向けの遊具をはじめ水栓設備、トイレや地表のクッションなどは極めて重要な保育設備と位置付ける必要があると考えます。また、そのような幼児に重点を置いた都市公園は、近隣に住む幼児にとっても快適な遊び環境となるでしょう。

清潔な公園のために地域住民としてできることを考えましょう

今回のアンケート調査は規模の小さい身近な都市公園を想定し、6才までの子どもを育てているお母さんを対象にしたからでしょうか、安全・安心、身近か、楽しさの他に、「清潔」という言葉が目立ちました。これは乳幼児・幼児の健康を考えれば当然でしょう。

規模の小さい都市公園の多くは自治体による管理だけでなく、町内会や近隣のボランティアなどが清掃などに関わっているケースが多く見られます。清潔に保つためには、犬を散歩させたら糞を始末する、ネコや鳥にエサやりしないなどの利用者の心掛けが重要ですが、子どもを遊ばせるお母さんもトイレを汚さないなど、ご自分でもできることを考えてみてはいかがでしょうか。

繰り返しになりますが、乳幼児・幼児の発育・発達のために外遊びは必要不可欠です。お母さんも忙しいとは思いますが、なるべく公園などに子どもを連れ出し、短時間でも外遊びができるような生活の工夫をして欲しいと思います。



公園の子カラLAB 特別アドバイザー

荻須 隆雄 氏 (東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了)

主な職歴…旧厚生省児童家庭局育成課主査(厚生技官)、埼玉県立大学保健医療福祉学部教授等を経て、2013年3月まで玉川大学教育学部教授。博士(学術)

主な委員…国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針(解説版)」検討委員、同改定委員会委員、同【第2版】改定委員会委員

主な著書…『遊び場の安全ハンドブック』(共著 玉川大学出版部 2004、こども環境学会; 第1回こども環境論文賞受賞<2006年4月>)、『保育所における事故防止・安全保育』(共著 日本保育協会 2003) など



NEWS LETTER (調査レポート)

調査概要

調査タイトル： 乳幼児・幼児が安心して遊べる公園に関する調査
 調査対象： GMOリサーチ社のリサーチパネル会員を母集団とする全国の現在0才から6才までの子育てをされている20才から40才代の女性
 調査期間： 2016年12月12日～12月13日
 調査方法： インターネット調査
 調査地域： 全国
 有効回答数： 551名
 調査協力会社： GMOリサーチ株式会社

■調査対象年代

	名	%
20-29才	67	12.2%
30-39才	352	63.9%
40-49才	132	24.0%

■調査対象者の子どもの年齢

	名
0才	54
1才	110
2才	118
3才	118
4才	113
5才	113
6才	105
7才以上	177

■就労状況

	名	%
専業主婦	362	65.7%
兼業主婦 (フルタイム)	85	15.4%
兼業主婦 (パート、アルバイト)	93	16.9%
その他	11	2.0%

■地域別調査対象数

	名		名		名		名
北海道	34	富山県	2	鳥取県	0	鹿児島県	2
青森県	4	石川県	5	島根県	2	沖縄県	1
岩手県	1	福井県	5	岡山県	9		
宮城県	9	山梨県	0	広島県	8		
秋田県	2	長野県	8	山口県	3		
山形県	5	岐阜県	14	徳島県	5		
福島県	3	静岡県	9	香川県	3		
茨城県	10	愛知県	44	愛媛県	9		
栃木県	9	三重県	4	高知県	1		
群馬県	9	滋賀県	4	福岡県	23		
埼玉県	40	京都府	8	佐賀県	4		
千葉県	31	大阪府	44	長崎県	2		
東京都	64	兵庫県	30	熊本県	4		
神奈川県	58	奈良県	3	大分県	1		
新潟県	9	和歌山県	3	宮崎県	3		

※この調査レポートのパーセント表示は小数点第1位までで、それ以下は四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

■設問

○スクリーニング用設問

Q1:あなたは現在、子育てをしていますか？子育てされている場合は年齢でお答えください。
 Q2:あなたの職業をお答えください。

これからあなたの身近にある公園について質問させていただきます。ここで言う身近な公園とは、街区公園や近隣公園と呼ばれる徒歩500mや10分弱ぐらいまでの距離にあり、大きさは2ha（100m×200mぐらいの面積）以下の公園のことを指します。

○本設問

Q1:子どもが成長するために、公園などで身体を動かす外遊びが大切だと思いますか？
 Q2:子どもの発育について、神経系（知覚神経や運動神経、自律神経など）は小学生になるまでに8割は発育が終わるといいう学説があることを知っていますか？
 Q3:子どもを遊ばせるために、公園へはどのくらいの頻度で行きますか？
 Q4:「月に数回、月に1回、ほとんど行かない」と答えた方にお伺いします。あまり公園に行かない理由は何ですか？
 Q5:子どもを育てるとい観点でどんな公園であることが最も大切だと思いますか？

Q6:公園へ行くときどのような遊びをさせますか？

Q7:公園で子どもを遊ばせている時、ご自身はどのようにされていますか？

Q8:子どもを公園で遊ばせたくないと思うのはどんな場合ですか？お天気が悪い場合を除いてお答えください。

Q9:子どもを遊ばせるために、公園にあったらいいと思うのはどんな施設・設備ですか？

Q10:公園にある遊具で子どもを遊ばせる時、その遊具が子どもの年齢に適しているかを考慮したことがありますか？

Q11:公園に限らず、旅行や買い物、親族や友達訪問、地域活動などで、家族そろって出かけるような機会はどの程度ありますか？

Q12:子どもを遊ばせたい、育てる場として、こんな公園があったらいいと思うことがあれば自由にご記入ください。



お知らせ

報道関係者の皆さまへ

本調査レポートの内容の転載にあたりましては「公園のチカラLAB調べ」と付記の上、ご使用いただきますようお願いいたします。

本調査レポートに関するお問い合わせ窓口

公園のチカラLAB編集室

運営会社：株式会社キャップスアソシエーション 光岡（ミツオカ）、左納（サノウ）

電話：03-5770-1758 FAX：03-5770-1748 メール：info@caps-inc.jp

運営会社概要

会社名：株式会社キャップスアソシエーション

CAPS ASSOCIATION, INC.

設立：昭和61年（1986年）1月21日

代表者：若山聖亮

本社：東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-12

業務内容：ブランドおよびコミュニケーション戦略・制作・実施

Webサイト：<https://www.caps-association.co.jp/>